はじめに

学校施設は、児童生徒の学習の場であると同時に、一日の大半を過ごす生活の場でもあり、それにふさわしい豊かな環境として整備することが求められます。

木材は、やわらかで温かみのある感触、高い吸湿性などの優れた性質を持っており、この性質を活用した木造校舎や、内装に木材を使用した教室等は、豊かな教育環境づくりを行う上で大きな効果が期待できます。また、木材の使用は、地球温暖化防止への貢献、地域の文化の継承などの観点からも、大きな意義があります。

このため、従来から文部科学省では、林野庁とも連携しながら、木材を活用した学校施設づくりに関する事例集の作成や講習会の実施により、地方公共団体が学校施設への木材利用に積極的に取り組めるよう普及啓発し、また、木材を使用した学校施設の整備に対して国庫補助を行うなど、様々な措置を講じてきました。近年、木造で建設される公立学校施設の割合は毎年度徐々に増加しており、非木造の公立学校施設についても内装木質化が行われています。

平成 19 年 12 月には、木を活用した学校施設の整備に関する手引書「あたたかみと潤いのある木のある木の学校 早わかり木の学校」を作成しました。計画から建設後のメンテナンスまで、木材を活用した学校施設づくりにかかる留意点について解説しています。当該手引書の活用により、学校施設における木材利用が更に進められつつある一方、初めて木材利用に取り組む地方公共団体の職員にとっては、具体的にどう検討を進めるべきかが分からず、実際に木材利用に取り組むのは、ハードルが高いとの声が聞かれることも少なくありません。

こういった状況を鑑み、平成 21 年 7 月に文部科学省と林野庁が共催で「学校の木造設計等を考える研究会」を開催し、木材利用に取り組みやすくする方策について検討してきました。その成果として、上記手引書の内容を踏まえつつ、主に地方公共団体の職員を対象に、特に課題として挙げられている木材利用の検討の進め方や、コストの抑制の方法を中心に、その留意点や工夫した取組事例をまとめました。

木材利用の取組は、地域の実情に応じて進め方が異なります。他の地方公共団体の取組や工夫の仕方から、参考となる情報を見つけ出していきたいと考えています。

今後の学校施設づくりにおいて、上記手引書等に加え、この工夫事例集が十分に活用され、木材を活用したあたたかみと潤いのある学校施設づくりが一層進展することを期待します。

最後に、研究会への参加、原稿執筆等の協力をしていただいた委員の方々、原稿執筆していただいた地方公共団体の職員の方々に感謝の意を表します。

平成 22 年 5 月